

授業科目名・形態	家族看護論 講義	必修・選択の別	必修	単位数	1
科目担当者氏名	芳賀 邦子	実務経験の有無	有	開講期	3年前期

【授業の主題】

看護の対象者は、多くは家族の一員であり、家族はその成員の健康上の問題によりシステムの、力動的に変動します。そのために、家族社会学などの理論に基づいたアセスメントが有用となり、家族看護学が発展してきました。現代の家族形態や家族機能の多様化に伴い、家族看護の考え方はますます重要となっています。本科目では、看護の対象となる個人を含む家族を一つのシステムとして捉え、その機能や役割を理解し、そのシステムを構成する個々の家族成員、家族成員間の関係性、家族単位の社会性を踏まえた上での看護活動・支援方法をみなさんと学びます。

【到達目標】

1. 家族看護の対象である家族とは何か、家族の形態と機能、役割、発達課題が理解できる。
2. 家族看護過程を展開するための家族アセスメントとその基礎理論を知る。
3. 家族成員の健康問題がもたらす家族への影響を理解し、家族看護計画を展開できる。

【授業計画・内容】

- 第1回 家族看護とは
 第2回 家族看護学の対象の理解
 第3回 家族看護過程の展開
 第4回 家族アセスメントツールとその基礎理論
 第5回 グループ学習①
 1. 家族関係論
 2. 家族成員の健康問題がもたらす家族への影響と家族看護の実践
 3. 家族看護の展開事例
 第6回 グループ学習② (第5回の継続)、プレゼンテーション準備
 第7回 グループ学習プレゼンテーション① グループ1～5
 第8回 グループ学習プレゼンテーション② グループ6～9、まとめ

【授業実施方法】

講義、グループ学習・発表・質疑応答など

【授業準備】

家族看護は、看護の各領域すべてに関係しているので、既習の知識の統合、および実習での体験を振り返り、整理して臨んでください。

【主な関連する科目】

各領域の看護専門科目

【教科書等】

鈴木和子・渡辺裕子：家族看護学 理論と実践，日本看護協会出版会

【参考文献】

岡堂哲雄編集：系統看護学講座 基礎分野 家族論・家族関係論，医学書院
 小林奈美：グループワークで学ぶ家族看護論，医歯薬出版
 その他、適宜講義中に紹介します。

【成績評価方法】

筆記試験 60%、グループ学習・グループ発表への取り組み 30%、授業態度 10%により総合的に評価する。

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

訪問看護ステーションにて、訪問看護師・管理者として患者を含む家族を対象として看護を展開することを経験しました。実務経験から得た患者を含める家族の形態や役割の多様化、家族の持つセルフケア能力の育成・活用とその支援、家族看護を展開する信頼関係の構築の大切さ等に関する知識を基盤として、家族とは何かを考え、家族看護の知識を深め、その重要性を伝えたいと思います。

【学生へのメッセージ】

家族看護論の学習を通し、家族の一員であるみなさんが、自分の家族について考える機会になることを期待します。グループ学習に積極的に参加し、学びを他のグループと共有することで、自己の学びをさらに深めていきましょう。